

## 地質の日関連イベント：市民地質巡検「ぶらり 小樽の地質と軟石建造物」の報告

仁科健二（北海道立総合研究機構地質研究所）・松田義章（北海道教育大・非常勤/北海道総合地質研究センター）・大鐘卓哉（小樽市総合博物館）・高見雅三（道総研地質研）・竹内勝治（小樽市総合博物館歴史ボランティア）・菅原慶郎（小樽市総合博物館）・松枝大治（北海道大学総合博物館）

地質の日実行委員会による市民向け巡検を2016年6月5日（日）に実施した。人々の暮らしに関わっている地質の一例として、地産地消の石材が小樽の街並み形成に果たしている役割が参加者に理解された。

講演では巡検の内容と当日の様子を紹介する。

### 巡検のねらい：

風光明媚な小樽の海岸風景を形成している小樽の地質、および小樽の街並みを構成する歴史的建造物は、それぞれが魅力ある小樽の観光資源の要素である。この巡検では建造物に利用されている石材に注目し、石材の母岩である地層の形成過程から小樽の地質の成り立ちについて解説する。

小樽市内の歴史的建造物には石材として凝灰岩が多く利用されている。それらの主な席石材は「小樽軟石」と「札幌軟石」であるが、それぞれの特徴や用途を小樽市内の歴史的建造物で観察する。さらに「小樽軟石」の生い立ちに関して、水中火山の活動がよく表現されている露頭を観察することで堆積岩である「小樽軟石」の形成過程を理解してもらい、小樽の地質と街並み景観との関わりを認識する。

### 巡検コース：

順路はおしよる忍路・桃内の地質巡検（地質編）と軟石建造物の巡検（軟石建造物編）との2つのコースで構成した。2班に分けられた参加者（それぞれ約30名）は、軟石建造物編-地質編（A班）、ないし地質編-軟石建造物編の順（B班）に巡検した。

### 地質編（案内者：松田・松枝・仁科）

小樽に分布する地質のうち、中-後期中新世の水底火山噴出物である忍路層とその上位の塩谷層の露頭を見学した。

忍路層：忍路半島忍路湾において枕状溶岩、ハイアロクラスタイト、および溶岩の節理構造がみられる。

塩谷層：桃内桃岩、砂質凝灰岩とその内部に堆積構造（逆級化構造、斜交層理構造）をみることができる。

### 軟石建造物編（案内者：竹内・高見・大鐘）

小樽市内（運河プラザから小樽市総合博物館まで、またはその逆ルート）を散策し、軟石建造物を観察した。道程で軟石建造物を観察する石材としての札幌軟石と小樽産軟石の見分け方を習得した。建築物はその建設時期によって、あるいは建物の部位によって使われている石材が異なる。また、斜交層理構造の縞模様をデザインとして装飾的に用いた建築（旧日本郵船）や再生石材を利用した建築物で様々な表面の模様を観察することで、海底の流れの影響下で堆積した小樽産軟石の特徴を理解することができる。